

2017年3月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 3月の景気判断は、「一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している」としました。前回2月の判断と変更はありません。
- 個人消費は、大型店の売上動向には大きな変化はない一方、自動車の売行きは堅調です。観光は依然弱めではありますが、一部に持ち直しの動きもみられています。この間、公共投資は緩やかに増加しており、住宅投資は引続き緩やかに持ち直しています。雇用は改善傾向が続いています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、2月は前年比▲5.9%と前年実績を下回りました。4か月連続の前年割れです。最近数か月の実績に比べて前年比の減り方がやや深いですが、今年の2月は昨年（うるう年）より日数が1日少なかったという要因もあると思います。100÷29÷3.4なので、仮に実勢が前年並みであっても、前年比3.4%分減少するのは自然な動きと言えます。また、今年は昨年に比べて休日が1日少なかったという事情もあります（今年は建国記念の日<2/11日>が土曜日）。こうした特殊要因を考慮すると、実勢は引続き若干弱含みの横ばいといった感じではないかとみています。
- 2月の新車登録台数は、前年比+7.7%と増加しました。軽自動車と軽自動車以外に分けてみると、軽自動車は、前年比▲4.1%と4か月連続で前年割れです。軽自動車は、昨年一時プラスに転じたのですが、その後回復にややもたつき感があります。一方、軽自動車以外は、前年比+14.5%と大幅に増加しました。7か月連続の増加です。こちらは、新型車の中小型を中心にしっかりした動きになっています。トラックなどの商用車も伸びています。

- 以上からみて、個人消費は、全体としてほぼ横ばい圏内の動きと考えています。

■観光の動向

- 観光は、前月はプラスのデータも見られましたが、2月はまたマイナスの指標が目立ってしまいました。
- 2月の道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年比▲0.9%で6か月連続の減少となりました。マイナスに寄与したのは、当月も旭川空港の国際線です。前年比▲49.9%と引続き大幅減少となりました。2月中は定期便は上海便のみで、他に韓国と台湾のチャーター便があった程度でした。これを除くと、全体の旅客数（＝国内線）は前年を上回っています。旭川空港の国内便は、前年比+3.9%、女満別空港は同+8.3%、稚内空港は同+14.1%、紋別空港は同+7.3%といずれも増加しました。
- 2月のホテル・旅館宿泊者数は、前年比▲4.3%とマイナスでした。1月に8か月振りにプラスに転じましたが、再び減少してしまいました。また、市内ホテルの稼働率も、86.2%と4か月振りに前年水準を下回りました。
- 各地観光は、旭山動物園が前年比▲0.7%と小幅ながらマイナスに戻ったほか、博物館網走監獄（前年比▲15.5%）、ウトロ温泉（同▲9.8%）、層雲峡地区（同▲1.8%）などもマイナスでした。
- もっとも、実績が前年比マイナスとなったのは、前述の日数要因もあると思われます。外国人観光客の入込みが少しずつ戻っているほか、流氷観光が好調だったとの声も聞かれています。全体としては、なお弱めではあるが、数字ほど悪くはないのではないかとみています。

■公共投資の動向

- 2月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負額は、季節的に金額は少ないのですが、前年比+78.8%と大幅に増加しました。この結果、年度初来の累計は、前年比+4.8%となっています。建設業界では、災害復旧のための工事もあり、人手不足と相まって、各社とも繁忙とな

っているようです。

■住宅着工

- 1月の新設住宅着工戸数は、前年比+76.9%と大幅に増加しました。持家（前年比+12.5%）も二桁の伸びですが、貸家（同2.5倍）が大きく伸びました。これまで大都市圏で目立っていたアパート投資の動きが旭川でも見られています。住宅着工は、引続き持ち直し基調にあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。1月の有効求人倍率は、旭川が0.92倍と1倍を下回ったほか、前年水準も下回りましたが、稚内が1.29倍、北見が1.33倍、網走が1.22倍と引続き高い水準です。1月の新規求人数は、旭川（前年比▲3.0%）が前年を下回りましたが、稚内（同+76.3%）、北見（同+14.0%）、網走（同+14.3%）がいずれも大幅に増加しましたので、全体では前年比+8.6%と前年を上回りました。

■今後のポイント

- 全体の判断は変更するまでには至っていませんが、公共工事の増加が当地建設業界の仕事を繁忙にさせているほか、金融緩和の効果もあって、住宅投資や民間の非居住用の建築物も増えており、これらが当地経済にとって明るい材料になっています。また、個人の所得が底堅いためか自動車の売れ行きは堅調です。全体としてはよい方向に向かっているのではないかと思います。この点、道北景気の現状で今一つなのは、自動車以外の個人消費と観光です。道北地域の景気がもう少しよくなったと実感できるためには、やはり個人消費にもう少し動意がほしいところです。観光も現在の（微妙な）持ち直しの動きが春から夏にかけてのシーズン入り後にしっかりしたものになることを期待したいと思います。それとあとは企業の設備投資の動向です。商用の

自動車が売れたり、民間の建築物が増えたりと一部に動きもみられるのですが、より本格的な動きに結びつくことが期待されます。この辺りは、4月3日公表の短観で確認したいと思います。

以 上

景気判断の推移

公表月	日本銀行旭川事務所		日本銀行札幌支店		(参考)北海道財務局旭川財務事務所	(参考)北海道財務局北見出張所
	前回比	道北(上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内)	前回比	全道	道北(上川・留萌・宗谷総合振興局管内)	オホーツク総合振興局管内
2014年9月	→	天候要因等による振れを伴いつつ、基調的には着実に持ち直している	→	緩やかに回復している	持ち直している	消費税率引上げに伴う、駆け込み需要の反動が弱まってきており、緩やかに持ち直している
10月	→	一部に緩慢さを残しつつも、基調的には着実に持ち直している	→	↓		
11月	↓	個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している	→		一部に弱めがみられるものの、	一部に弱さがみられるものの、持ち直している
12月	→	↓	↓	一部に弱めがみられるものの、緩やかに回復している		
2015年1月	→		→	→	↓	
2月	→	→	→			
3月	→	→	→	↓		一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
4月	→	→	→			
5月	→	→	→	↑		
6月	→	→	↑			
7月	→	→	→	↓		
8月	公表なし					
9月	→	→	→	↓		
10月	→	→	→			
11月	→	→	→	↓		
12月	→	→	→			
2016年1月	→	→	→	↓		一部に弱さが残るものの、緩やかに持ち直している
2月	→	→	→			
3月	→	→	→	↓		
4月	→	→	→			
5月	→	→	→	↓		
6月	→	→	→			
7月	→	→	→	↓		
8月	公表なし					
9月	→	→	→	↓		
10月	→	→	→			
11月	→	→	→	↓		
12月	→	一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している	→			
2017年1月	→	→	→	↓		
2月	→	→	→			
3月	→	→	→	↓		↓







